

第5章 地域の行動

第1節 環境市民会議の取組

地域の環境を保全し、回復させるには、市の環境施策を推進するとともに、市民・事業者の自発的な環境保全活動が不可欠となってきます。

環境市民会議の皆さんが各地区においてそれぞれ調査した環境の現状と、一年間の活動や取組を報告します。

皆さんが住んでいる地区の身近な環境について、「知る、考える、行動する」きっかけとなれば幸いです。

環境市民会議とは？

市内を6つの地区に分け、その地区の環境が良くなるよう自ら活動する団体です。

市内在住・在勤・在学の方であればどなたでも参加できます。

環境保全の取組は、一人ひとりの行動が最も重要ですが、その地区の取組の推進力となるのが環境市民会議となります。

地区内の町会・自治会や事業者、あるいは各種団体との連携を図りながら活動しています。

環境基本計画では、地区ごとにめざす環境の姿を定めるとともに、地区の環境の現況・課題を整理し、その解決に向けた主な取組などを「地域の行動」として示しています。

この地域の行動は、環境市民会議の皆さんによって策定されたものです。

6地区の位置図



中央地区環境市民会議

中央地区環境市民会議が調べた環境の現状

浅川巡回からは川口川合流点のワンドで小魚の生息する姿が見られ、また「浅川ふしぎ探検」の子供から大人までの大勢の参加者からは、浅川が市民の憩いの場であることがよく分かります。秋の「まちなかウォッチング」からも身近な自然・文化に興味を抱く市民の勉強意欲が感じられます。それらは市民センター祭り等のイベントで環境コーナーとして参加した時も同じです。分別クイズで「前にもやった事があるのよ」と言いながら、参加される方々の意識は高くなってきていると感じます。これからは、もう一つ省エネへの繋がりを作り上げて市民の方々と歩んで行けたらと考えます。

■ 中央地区の主な取組

1. 地球温暖化防止のための省エネ生活の推進

市民の方々に省エネの具体的な方法や温暖化の問題を伝える人材を育成するため、各地区環境市民会議からスタッフを募集し、勉強会を実施しました。省エネルギーセンター主催の「家庭の省エネアドバイザー検定」合格者を八王子市エコひろば家庭の省エネアドバイザーと設定、市民向けに省エネ講座を企画し、6月（石川）・11月（恩方・加住）・12月（台町）に各市民センターで「家庭の省エネ講座」を実施しました。8月には環境市民会議向けに省エネ講座を実施しました。

八王子市温暖化防止センターでの家庭部会・運営委員会に参画し、夏・冬の省エネチャレンジや12月の環境講演を支援しました。

2. ごみの分別徹底とリサイクルの推進

4月のみずき通りフェスティバル、7月の中野七夕まつり、10月の台町・大和田の各市民センターまつり、11月のいちょう祭り、1月の西八ハイツ新春餅つき会に「環境コーナー」を設け、クイズを通し正しいごみの分別を説明し、クイズの景品として生ごみから作った堆肥を配布しました。

エコひろばではもったいない委員会やみんな集まれ委員会に参画し、あつたかホールまつりや子ども環境まつり等のイベントを支援しました。段ボールコンポスト事業では八王子市生ごみリサイクルリーダーとして支援しました。



家庭の省エネ講座 エコひろば



家庭の省エネ講座 石川市民センター



みずき通りフェスティバル

3. 河川の清掃活動

重点課題である浅川の清掃は、河川巡回観察で清掃活動場所を見定め、河川敷や水際を主体に3回／年実施し、その他河川でのイベントの際に水際や橋の下などの河川敷、堤防の清掃を積極的に行いました。より良い水辺環境を確保し、誰でも親しまれる浅川であるようにこれからも地道に努力していきます。



浅川の清掃活動

4. 河川の巡回観察・調査活動の推進

浅川巡回観察を実施し、会員に内容を報告すると共に、必要により関係行政へ申し入れを行いました。毎年行われている護岸工事による泥水の流出で、水底の石は泥に埋もれ水生生物の生息環境が懸念されるため、泥水の流出が極力少なくする工法の取り入れを申し入れしました。

6月29日に全国一斉身近な水環境調査に参加し、浅川大橋と鶴巻橋真下の地点で水質調査を行いました。水質はきれいな水のレベルでした。

8月2日浅川と川口川の合流地の造成ワンドの伏流水流量を調査しました。造成ワンドは大雨で冠水後もワンドの形態を保ち、魚が群れ、時折野鳥も飛来しています。

5. 環境教育・環境学習などの推進

9月13日に自然体験講座「浅川ふしぎ探検」を実施し、親子合わせて70名の参加がありました。魚獲り・ボート遊びに親子で楽しいひとときを過ごされ、きれいな浅川での貴重な体験、心配りされた安全などの感想をいただきました。

中央地区における小学校環境教育(5校)の支援活動(10回)に会員延べ68名がスタッフとして参加しました。

八王子浅川子どもの水辺協議会への協力は、「ウグイの放流」イベント(3回)にスタッフとして会員延べ7名参加しました。5月18日桑都ライオンズクラブの川遊びには、スタッフとして会員3名参加しました。7月19日ガサガサ探検隊には、スタッフとして会員8名参加しました。

9月6日水辺のかんきょう教室にスタッフとして2名参加しました。

7月30日「都小学校生活科・総合的な学習教育研究会の先生の川の研修」の支援活動に会員2名参加しました。



自然体験講座「浅川ふしぎ探検」

■ 特色のある取組

11月に自然体験講座として、まちなかウォッチングを実施し、多くの市民の参加を得ました。市街地にある街路樹などを記したグリーンマップを毎年更新しており、市民に配布しました。

また、6月・12月に全国一斉に実施している大気汚染測定に参加し、当地区のデータを提供しました。

北部地区環境市民会議が調べた環境の現状

北部地区の東側は住宅地が開発されています。その中に、従来からの緑地が保存緑地として保存されている箇所もあります。西側は南・北加住丘陵があり、豊かな緑が残っています。地域の中央を谷地川が流れ上流では従来からの自然護岸が残っています。一方、交通面では、国道16号、同バイパス、20号、滝山街道に加え、新滝山街道が開通し、中央高速道八王子ICの他に、圏央道あきる野ICが近くに建設され、交通の要衝となっています。このような状況の中で、以下の問題も顕在化してきており、多分野からの対応を求められています。

- ・ 谷地川上流部での水質・水量の改善
- ・ 加住丘陵などで、手入れが行われない樹林地の存在
- ・ 生活の場所から見えない場所でのごみの不法投棄
- ・ 環境保全活動が共通の認識になっておらず、温度差がある
- ・ 小・中学生が地域にある貴重な自然資源や文化、歴史を知る機会の少なさ
- ・ 地域内の幹線道路の多くの交通量による、大気汚染悪化の懸念

■ 北部地区の主な取組

1. 谷地川の調査と清掃活動

谷地川の7地点(6月のみ8地点)を対象に、パックテスト(COD)、pH、電気伝導度、生物調査を2カ月ごとに9年間継続して実施しています。全国一斉水質調査を6月8日に実施。同調査が開始されてから、全てに継続して参加しています。谷地川の清掃を26年度から、市主催の「川の清掃デー」に参加し、滝山2丁目町会と協働して実施しました。川の姿を知るために、新たに流量測定を開始しました。今後、季節ごとに測定を行う予定です。



川の清掃

2. 緑地保全活動

北部地区の活動団体と一緒に、市内の緑地を保全整備する活動を実施し、市内に残る里山雑木林の保全に貢献しています。対象とする緑地は、大谷緑地(活動回数:24回/年)、中野山王緑地(12回/年)、暁町緑地(12回/年)、大谷斜面緑地(4回/年)、大和田緑地(6回/年)、粟の須緑地(6回/年)、戸吹北緑地(30回/年)、滝山城跡(12回/年)です。



雑木林の整備活動(間伐)

3. 環境教育・環境学習などの推進

小学生の自然体験は、楽しみながら自然を学ぶ場になっています。市内の他団体とともに、小宮小学校4年生を対象にして、多摩川の自然を現地で学ぶ授業を支援しました。「①多摩川の概要を感じてもらう。②課題テーマを決めて調べる。③学校での調べ学習。④校内発表会。」の延べ4回で、環境教育としてシステマ



グリーンシップアクションでの植樹風景

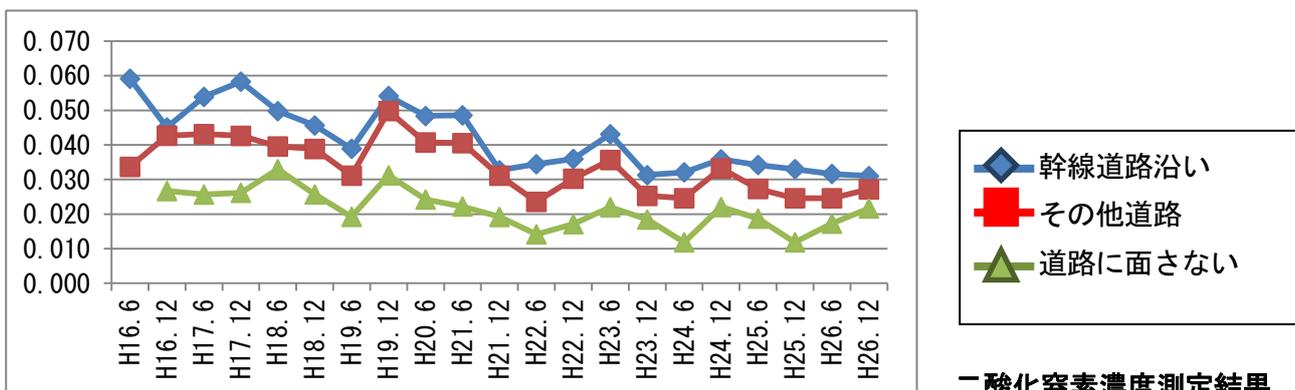
ティックなプログラムであり小学生には非常に有効です。最終的に活動の概要を示すパネルを作成しました。大和田小、第八小、緑ヶ丘小、加住小中学校、渋谷区立代々木小に対しては、里山林の意義、活用の仕方を学ぶ場として活動を実施しました。大学生に対しては、東京都グリーンキャンパス活動として、首都大学東京の約20人に対して年間2回、また、企業を対象にして、東京都グリーンシップアクションとして、6社に対して緑地の整備の体験を通して環境問題、緑の保全の重要性を理解していただくプログラムを実施しました。

4. 大気汚染測定

地区内の幹線道路、その他の道路、道路に面さない場所を対象に調査を実施しました。調査地点数は、32か所の定点調査で、11年間、年2回（6月、12月）実施しています。

計測の結果、測定地点の特異性は継続しているが絶対値は減少の傾向が見られました。

二酸化窒素濃度 (ppm)



二酸化窒素濃度測定結果

5. 地区の環境マップ作成

現在使用している環境マップの更新を目指し地区の環境調査を計画しています。

現環境マップは各種イベントで配布し、北部地区を知ってもらうために活用しています。

■ 特色のある取組

1. 八王子環境フェスティバルへの参加

恒例の八王子環境フェスティバルに参加し、メンバーが作成した環境パネルの展示や、谷地川で捕獲した魚・水生生物を水槽に展示する準備を行いました。残念ながら荒天のため、中止になりました。来場者に配布するための草花は、地域の小学校や公共施設に配布しました。

2. 環境パネル展への参加

市主催のパネル展とエコひろばでのパネル展示に協力しました。
(8月、10月)

3. 自然体験講座の実施

地域にある滝山城址の自然と歴史を知る講座を11月に、滝山城址と高月地区の田園地域を散策し、風景と自然を感じる講座を3月に実施しました。見学の合間にクイズ形式で、「滝山城跡の大きさ、高さ、堀の種類、ここで見られる樹木・草花など」の振り返りをしてもらいました。また、地域に咲いている花や緑地に来る鳥を説明する「しおり」を配布し、地域の豊かな自然の記憶を参加した方達に持ち帰ってもらいました。



滝山城跡の説明 (11月)



カタクリの観察 (3月)

西部地区環境市民会議が調べた環境の現状

市の西に位置する西部地区は、みどり豊かな自然に恵まれて多様な生態系が形成されています。このような環境の中で地域を流れ浅川の源流として位置付けられる案下川、醍醐川、小津川、川口川、城山川、大沢川では、近年保水力浸透性が低下したためか河川に水量の減少や瀬切れが目立つようになり、景観にも大きな変化が見られます。

地域には大きな幹線道路やトンネルもあり陣馬街道、秋川街道、高尾街道の各交差点を含む15か所で生活地域の大气汚染測定を実施しております。

また、川町の約26.5haの緑豊かな都の所有地に、都と企業の協同による「人と自然、自然環境と地域社会の共存・共栄を自然から学ぶ」を基本理念に「高尾の森自然学校」が27年4月1日に開校されました。この自然学校では野鳥観察会、森林ボランティア体験等のプログラムが生まれ講座が開始されています。

都民・市民を始め沢山の方々に体験講座が活用されることを期待いたします。

■ 西部地区の主な取組

1. 環境教育支援事業の実施

(1) 環境教育支援

西部地区の小学校では総合学習の中に地域の川の「生き物調べ」を取り入れ実施しています。今までに元八王子東小を初めとして各小学校の4年生を対象に式分方小、上壱分方小、浅川小、川口小、陶鎔小および恩方第二小の学習支援を実施しました。

この自然体験学習は「川と水に入る」「生き物の捕獲」などを実施しています。児童の生き生きとした行動が見られ、楽しみながら自然を学ぶ場として支援の依頼は増えています。



自然体験学習

(2) 式分方小学校のダンボールコンポスト支援

可燃ゴミの約半分は「生ごみ」と言われています。

この生ごみをたい肥にすることでゴミ袋の大きさを半分にするのができ、最近ではダンボール箱を利用したたい肥作りが市民の間に広がりを見せています。

ダンボールコンポストはダンボール箱に入れた基材（もみ殻のくん炭等）に生ごみを入れ、かき混ぜ微生物の力で分解したたい肥に変えるものです。ここ数年、このダンボールコンポストによるたい肥作りに式分方小の児童が取り組んでおり、今回支援させていただいた。

手順は①登校時に生ごみを持参。②ダンボール内の基材に生ごみを入れ良く混ぜる。

③経過を観察、約2ヶ月そして熟成期へ。④出来たたい肥を学校の農園で活用する。

⑤収穫した野菜（大根など）を家庭で食べる、他に学校給食にも使用する。

26年度は式分方小の他に大和田小、鹿島小も取り組んでおり楽しい支援活動です。



ダンボールコンポスト作り

2. 大沢川・城山川 のクリーン活動

元八王子地区の大沢川・城山川は、支流の城の越川・御霊谷川の流れも集め人口の多い市街地を流れているためどうしてもゴミの流入は避けられません。缶・ペットボトル・プラスチックなどの完全に溶けず沈殿し易いものを年4～5回にわたり収集しています。毎回ボランティア袋15袋以上の収集です。

“黄色いベスト”でのクリーン活動「清流をとりもどそう」の地域住民への意識改革は浸透しつつあるのか、ゴミの総量には減少の変化が見られます。



収集ゴミ分別作業

3. 特定外来植物の駆除

大沢川・城山川は川の台地に外来植物やクズ（和性つる性植物）が繁茂しており、3月・5月・9月に行うクリーン活動と合わせて刈込用具を携帯し撲滅作業を続けています。

3月には主にギシギシ・ナガミヒナゲシ、5月にはブタクサ・キクイモ・アワダチソウ・アレチウリ・キシヨウブ・クズなど春の新芽時と9月秋の開花時にゴミ収集と合わせ刈込し、その後の拡散の経過を観察しています。4月に叶谷榎池の整備竣工があったがここには外来植物の「黄ショウブ」が繁殖しています。

3月の新芽前に市水環境整備課・地元叶谷町会と協力で黄ショウブの根を掘り出し、駆除活動を実施しました。



黄ショウブの根掘り出し

4. 河川・湧水の水質調査

「身近な水環境の全国一斉調査」に加わり8年、大沢川・城山川の源流部分から13ヶ所の水質調査を行い主催団体・都建設局河川管理課・市水再生課に報告しています。

また、西部地区には湧水が各所にあり、災害時にも役立つ地域の「湧き水」の水質調査を定期的に行い、これも市水再生課ほか関係各所に公表しています。



大沢川の水質測定

5. 大気汚染の測定活動

「身近な空気の汚れを調べ、環境とまちづくりを考えよう」を合言葉に、毎年6月・12月に大気汚染測定（二酸化窒素）を実施しています。この運動も都の発声から75回を迎えました。

当地区も交通量の増加、新規住宅団地の開設もあり順次測定箇所を増やし26年度から15ヶ所のデータをとり蓄積しています。近年の汚染の原因は徐々に生活型公害（生活者自身が加害者になる）のウエイトが増していると言われてはいますが、幸いに当地区の住宅専用地域は緑地も多くまだ空気も快適な環境を保っています。しかし車が集中する国道・都道の幹線交差点は従来通り環境基準値を超えており問題箇所もあります。

西南部地区環境市民会議が調べた環境の現状

西南部地区は、高尾山を背景とした豊かなみどり、南浅川、湯殿川など水辺の環境、貴重な生き物、歴史ある史跡などに恵まれた環境、自然の宝庫です。又、首都圏の交通の要衝であり、高尾山の入山者は年間約300万人とも言われます。高尾山ICと結ぶ八王子南バイパス道路建設に伴う希少植物の移植を国土交通省と行き、開発と保護の難しい問題にも直面しました。「高尾599ミュージアム」が開館し、東浅川の大規模開発などまちなみの変化も見られます。環境の保全、生活空間を見守る環境パトロールや小学校の環境学習支援活動には力をいれ、四季折々の自然体験講座、地区市民センター祭りのパネル展示や、調査を含む河川の清掃活動、いちよう祭りのごみ分別指導、マイバッグなどの啓発活動は継続して取り組んでいます。

■ 西南部地区の主な取組

1. 高尾山の環境保全活動

高尾山自然調査で指標樹木の樹勢を観察・記録し年毎の変化を観察しています。6月に6号路から1号路、蛇滝口の指標樹木22本、翌3月に1号路から4号路、蛇滝口の指標樹木15本を調査し、過去9年間の記録を整理して比較検討を行いました。小仏城山周辺の環境調査を3回行いました。高尾山に咲く四季の花のパネル展示説明により、地区市民センター祭りで自然の大切さ、環境保護を訴えました。



高尾山頂（調査メンバー）

2. 地域の宝の掘り起こし

「地域の宝を掘り起こし」コースを設定し、自然体験講座を開催しました（10月12日）一般市民14名、会員13名も参加して小仏から駒木野までの自然、歴史、文化遺産を観察しました。

会員が下見調査したコース案内図や地域の宝の写真、説明文を当日資料とし参加者への配布は好評でした。「エコミュージアムマップ」の市街編の改訂版（文化探索コース、自然探索コース、計8コースの案内）は印刷段階まで完了しました。



小仏川沿いのJRレンガ高架橋

3. 里山の保全活動

池の沢に螢を増やす会と協働で、一般募集で6月「螢観察会」、9月、11月企業社員・家族の「里山保全体験講座」、27年3月「野鳥観察会」を八王子館町緑地保全地域で行いました。駒木野の野草の保護は地元の野草保護者会と協働で継続して取り組み、関連する里山／地域の宝の調査は西南部地区内を分担して探し52か所を調査（所在地、現状、所感）して整理中です。

4. 親しみのある水辺環境の構築

（1）流域の水質調査

6月8日の全国一斉検査は豪雨による増水で中止し、6月23日に延期し実施しました。前回との対比ではCODの値が増加した箇所は21か所中13か所あり、同じ値を示した箇所は6か所、低い値を示した箇所は2か所でした。CODの増加箇所（13/21か所）は湯殿川・南浅川・山田川の各河川に渡っているため天候変動が続いた原因と考えられる。また湯殿川御霊神社上流の地藏橋付近は護岸工事が進み、川辺の自然は少なくなる傾向にあります。

(2) 水辺のすこやか調査および川の清掃活動

5月18日に湯殿川の清掃と同時に水辺の健やかさ調査を実施しました。(参加者18名)、川の清掃区間は柵橋～新田中橋間を行い、タイヤ、クーラーフィン、自転車などを除去、昨年の区間と合わせ和合橋までの1.2kmの区間にある河川内の大型ゴミの除去ができ、学校の川の学習場所の安全確保や急流危険箇所の指摘と改善につなげることができました。



湯殿川 (河川内のゴミさらい)

5. 環境パトロール

(1) 高尾山の環境パトロール (自然部会)

樹木の指標調査とともに6月と27年3月コースの構築物の変化樹木の伐採などの変化、コースのごみ拾いなどを併行して実施しました。

また、不法投棄の調査としては27年3月に殿入中央公園周辺の通路奥地まで10名で収集ごみ量の記録、分別をしました。翌週には同じ場所で野鳥観察会が行われ、観察された総種類数は20種～25種、一般市民・支援者含めて参加者50名にとって、気持ちの良い観察日和になり、充実した活動となりました。



殿入中央公園 (不法投棄ごみ分別)

(2) 生活環境面からの満足度調査

5月長房、10月横山南、11月浅川の区域の市民センター祭りの来場者を対象に、地域住民の「生活環境満足度調査」を実施し、市内全体の市政世論調査と西南部地区エリアとの比較は生活環境部会スタート年の新しい試みとなりました。

(3) 大気汚染測定 (NO₂)

圏央道高尾山ICの開通に伴い交通量の増加による周辺の大気汚染が懸念され、新規に周辺5か所の観測点を増やし、年2回(6月・12月)NO₂測定を実施しました。前回差(6月対比)では+0.005PPM以上の測定値の変化は27か所中7か所(主に交差点)でした。

■ 特色のある取組

1. 市立学校環境教育支援

西南部地区エリア内の小学校5校：7学年実行した。学区周辺の自然に触れ合う為の総合学習として近くの河川に行き、河川環境の基本調査や生き物探しを通して、川についての実習補助を行いました。5校：7学年、24日間：支援者延数146名

2. いちよう祭りの環境支援活動

第35回いちよう祭りは11月15～16日行われ、両日晴天に恵まれ、来場者数は52.1万人(過去最高)と発表され、可燃ごみ量は約5トンという大イベントでした。

当会(13名参加/前後4日間)は桑志高校1年生(210名)、富士森高校生、シルバー人材センター、国際学生ボランティア(大学生)、事業者(完山金属)と協働し、連携でごみの分別指導に当たりました。

3. 東浅川・原宿町会との連携活動

7月東浅川・原宿町会主催の「子供の自然体験」子供105名、大人70名に、当会から10名の支援者が参加し、川の探検隊、昆虫の探検隊を編成、南浅川および陵南公園において両探検隊の探索支援をしました。同時にパネルも展示し、当会の活動内容の一端を紹介できました。

東南部地区環境市民会議が調べた環境の現状 「ふるさとの八王子を美しい街に！」

東南部のみどりは、周辺域の小規模開発により減少しています。一方、手入れの行き届かない里山も見受けられます。

河川の状況は、浅川、湯殿川、兵衛川、山田川、寺田川の14地点の水質調査を行っていますが、COD値はきれいという基準値の1～2のところが多いものの、ごみのポイ捨てがまだ見られますので、一層の啓発を続ける必要があります。

年2回の6駅周辺のごみを種類ごとに数えることにより「きれいさ評価」を行っていますが、たばこの吸い殻のポイ捨てが見られるものの、街全体としては年々非常にきれいになっています。

大気汚染の状況は東京一斉NO₂測定に年2回参加し、継続して測定していますが、16号バイパスでは数値が悪い場所が多く、今後とも注目していく必要があります。

地域とのつながりを大切にして街の美化、河川の美化に努め、美しい街にしていきたいと思えます。

■ 東南部地区の主な取組

1. 市民センターまつりへの出展

当地域では10月に由井市民センターみなみ野分館まつり、由井市民センターまつりと11月に北野市民センターまつりが実施され、6駅周辺の道路のごみの状況を半年ごとに調査した状況を「きれいさ評価」としてまとめたもの、河川の水質の状況、省エネ対策や東南部地域の散策用に作成したハイキングマップや街路樹マップをパネルで展示し啓発活動を行いました。

2. 自然エネルギーや節電・省エネの出前講座

8月の式分方小学校では自然エネルギーの座学とソーラークッキングの実験を行い、再生エネルギーへの関心を高めるとともに、小学生と付き添いの保護者に実際にできた焼き芋を食べて太陽エネルギーの力を実感してもらいました。

省エネ・節電の市民講座として9月に北野事務所で、11月に加住市民センターで、2月にはあったかホールで講師を務め家庭の省エネの推進を行いました。参加者からいろいろなところに省エネや節電のタネがあることがよくわかり非常に参考になったという感想をいただきました。3月には八王子法人会に対し「期待される次世代エネルギー」の講演を行うとともに、会員のレベルアップのために講師を招いて研修会を実施しました。



ソーラークッキングの様子

3. 東南部駅周辺のきれいさ評価や北野駅周辺の清掃活動

年2回区域内の6駅周辺のごみの内訳ごとに個数を数えることにより、「きれいさの評価」を行っています。依然としてたばこの吸い殻のポイ捨てが見られるものの、市の施策、町会・自治会、事業者、学校、各種団体、個人ボランティアなどの美化に対する思いが効果を表して、最悪時に比べてごみは約1/9に減少し街全体としては年々非常にきれいになっています。12月には市と北野町会、打越町会との協働により北野駅前喫煙マナーアップキャンペーンを行い、チラシとティッシュペーパーを配ってたばこのポイ捨てをしないよう呼びかけました。

毎月の活動として北野駅周辺と湯殿川下田橋周辺のごみ拾いをして街の美化と啓発に努めました。

4. 河川の水質調査と清掃

6月の全国一斉調査で、浅川、湯殿川、兵衛川、山田川、寺田川の14地点の水質調査を行い、12月には同じ地区で独自の水質調査を行いました。COD値はきれいという基準値の1~2のところが多いものの、ごみのポイ捨てがまだ見られるので、一層の啓発を続ける必要があります。

河川の清掃は4月に浅川流域市民フォーラム、都、市、長沼町会と合同で浅川の清掃を行いました。参加人員は長沼町会の43名、一般参加の5名を含む64名でした。7月と12月には湯殿川の清掃を都と市の支援を受けて計画し流域町会にチラシで呼びかけて実施しました。



河川の清掃（4月）

5. 地域の自然・歴史の調査と勉強会と自然体験講座

自然体験講座は7月と10月の2回行いました。7月の「イカダで川下りと生き物観察」には親子17組が参加し、親子で会話を楽しみながら竹を縛って浮き輪を付けてイカダを作り、川へ持ち込んで川の楽しさを親子で体験してもらいました。参加した方々からは川の水がきれいだということ、川にいろいろな生き物が多くいるということ、自然と遊ぶことができずばらしかったという感想をいただきました。



夏の自然体験講座

10月の自然体験講座は「小比企の自然と歴史を歩く」を行い38名が参加し、斜面緑地の保全活動の見学、磯沼牧場の見学、稻荷神社では大正期の、湯殿川や小比企の丘では縄文期以来の往時をしのび、室町時代築城の片倉城跡、城の鎮守の住吉神社や大林禅寺などの文化財を堪能し、途中農家の方が作業をしている脇を通り、片倉つどの森公園、片倉城跡公園を散策して自然と歴史に触れる1日を過ごしました。

東部地区環境市民会議が調べた環境の現状

東部(旧・由木村)地区の北側は多摩丘陵が東西に走り、また、南側は多摩ニュータウンとして、地域の特徴としてのみどりの景観を、それぞれ形成しています。

この地区は、空気や水の供給源であるみどり連なる多摩丘陵の里山を維持することで、人の生活と多様な生きものが生きていくことができる環境として守られています。

古くは、昭和57年に「南陽台の自然を守る会(現：多摩丘陵の自然を守る会)」が発足し、以来30年にわたり、多くの住民により多摩ニュータウン・由木の里山保全活動が続けられてきたことがあります。

今では「多摩ニュータウン」の別所地区の面積19.8haの『長池公園』、堀之内地区の面積5.2haの『堀之内寺沢里山公園』が整備され、隣接の東山地区も、みどりの保全を重視した緑地に囲まれた住宅地域になっています。

さらに、堀之内の里山について、都の自然保護条例による里山保全地域に指定された『宮嶽谷戸』のみどりの保全活動も進めています。

■ 東部地区の主な取組

1. 里山保全活動の推進

長池公園や寺沢里山公園、堀之内里山保全地域などで、里山・谷戸の保全活動を実施しています。

『長池公園』では「長池里山クラブ」が活動主体になり、毎月第2土曜日を中心に、火曜日と土曜日にスタッフによる保全活動と活動の事前準備を行っています。26年度の初回は、4月18日で、大人、子供を含め58名が参加しました。主な活動は、4月の「炭焼き」、6月の「田植え」、10月の「稲刈り」、12月の「収穫祭」での『餅つき』、が主な活動で、正月には“どんど焼き”を行い、2月の「炭焼き」で年間行事を終了しました。

『寺沢里山公園』では、毎週土曜日に、『まちづくり里山楽友会(寺沢里山楽友会)』が30人前後で活動をしています。

『八王子堀之内里山保全地域』では主に堀之内里山管理協議会(「里山農業クラブ」、「ユギ里山保全チーム」、「多摩丘陵の自然を守る会」で構成)が、耕作放棄され荒廃した谷戸源頭部のアズマネザサやアオナリヒラタケの伐採を行い、里山の保全整備を推進しています。

多摩丘陵の“自然”を知ってもらうため、毎年2回、春秋に『自然体験講座』として、春は、4月27日に“堀之内地区”、秋は、10月26日に“中山・鎌水地区”で、植物を観察しながら歩く会を実施しました。



どんど焼き 長池公園



秋の自然体験講座

2. 花壇の維持・管理

南大沢駅前ペDESTリアンデッキに設置してある大型花壇22基の維持・管理を実施しています。

南大沢駅前の花壇管理は、市の「道路アドプト活動」として、『南大沢みどりのサポーターの会』が主体で、毎月2回実施しています。今年、4月4日から開始し、改札口前の「花壇」に会員募集の看板を取り付けました。4月に「春苗」の植付け、6月に「夏苗」の植付けを行い、7月中旬から8月一杯は、毎週交替で“夏の水やり”を実施しました。秋の恒例の『フラワーフェスティバル由木』には、9月24日からの“コンテナガーデンコンテスト”に参加し、冬に向けては、11月に「冬苗」を植付け、新年3月17日の総会で、26年度を終了しました。



春苗の植込み



秋苗の植込み

3. 環境教育支援事業の推進

『環境学習支援活動』は「由木東小学校」など地区内の小・中学校で、環境教育の支援を実施しています。

由木東小学校では、4年生（107名）に、6月26日と9月10日に、浅川・ふれあい橋付近で、10月2日に、大栗川・番場橋付近、沖の谷戸で「学習」を行い、11月25日には、講堂で『発表会』を行いました。

柏木小学校5年生（58名）には、9月18日、浅川・ふれあい橋付近で、松が谷小学校5年生（44名）にも、10月10日、浅川・ふれあい橋付近で、体験実習を行いました。



柏木小環境学習支援活動

4. 大気汚染測定と水質調査

大気汚染の調査と河川の水質調査は、毎年、関係団体と共同してそれぞれ実施しています。

大気汚染の調査は、毎年6月と12月に行われる「大気汚染測定運動 東京連絡会」の主催する『全都いっせい測定』に参加して実施しており、6月5日～6日と12月4日～5日の2回に23か所で実施しました。

河川の水質調査は、6月の年1回の「全国一斉水質調査」に、「浅川流域市民フォーラム」と連携して行っており、26年度は、増水のため、6月15日に変更し、“大栗川”3か所、“大田川”2か所、“大栗川支流”5か所の『10か所』で測定しました。（データは、「環境白書」（データ集）に掲載。）

5. 環境関連団体との交流

環境保全で活躍する各種活動団体と情報交換するとともに、活動支援を行っています。

「多摩丘陵の自然を守る会」、「長池里山クラブ」、「南大沢みどりのサポーターの会」、「寺沢里山楽友会」のほか、「里山農業クラブ」、「NPO法人 YUGI」、「トウキョウサンショウウオを守る由木の会」、「鎌水“蛭の里”」、「小山内裏公園の会」などと連絡協調しています。

都の自然保護条例による「堀之内里山保全地域」の里山保全管理活動に関しては、市環境保全課からの要請に基づいて、「多摩丘陵の自然を守る会」ほか地元の堀之内の各組織も協力しています。

地域行動編評価一覧

26年度における環境市民会議各地区の活動実績に基づき、その地区の活動実績をその地区で総括的に評価したものと、その評価に対して環境推進会議で相互に評価したものを掲載しています。

＜中央地区環境市民会議での総括評価＞

26年度は主な取組5つの項目に関し、会員の協力の下、大いに取り組む事が出来た。また特色ある取り組みで報告されているグリーンマップは4月更新版を1500枚、イベント参加時に市民の方々に手渡す事が出来た。「生ごみダンボールコンポスト勉強会」では、7名の参加から条件の合う4名の実践者が生まれている。浅川では、繰り返し行われる護岸工事の泥水が水生生物の生息環境に多大の影響を及ぼしており、担当行政への善処の申し入れを行った。また26年度は部活動や定例会には参加出来ない先輩会員2名から、ご自分のペースに合わせた活動の報告が文書で出された。今後も多くの会員が協力し合って、中央地区の取り組みを支えて行けるように活動を進めたいと考える。

＜環境推進会議での相互評価＞

市民センターまつりなど地域に密着したイベントでのごみ分別徹底の啓発や、町会・自治会との協働で省エネ講座の開催など市民活動の参加を積極的に取り組んでいただいている。浅川での活動としては巡回パトロールをはじめとし、ウグイ放流イベント、自然体験講座「浅川ふしぎ探検」などを継続的に行っていただいている。また新たに伏流水流調査を行うなど浅川の保全活動にも努めていただいている。今後とも市民に向けた啓発活動などを行うなど活発な活動を進めていただきたいと思う。

＜北部地区環境市民会議での総括評価＞

緑地保全活動については、地域にある団体「八大緑遊会」「滝山城跡群・自然と歴史を守る会」と協働で継続的に実施している。緑地を保全・更新させる活動は、内容・頻度も十分と考える。谷地川の清掃活動に今年度から参加し、町会の方々と一緒に行った。今後も継続することで、環境保全活動を広げていく一つのきっかけになった。谷地川の水質と生息生物の調査を定期的に行い、データの蓄積を行うことができた。環境教育支援・環境学習支援では、地域にある自然資源を利用して実施した。小宮小学校の環境学習支援では、隣接する多摩川を対象にした観察を実施し、調べた結果を元に、さらに図書やITを使って自ら調べる手助けを行った。また、市内外の小学校の生徒に保全活動を継続している里山林をフィールドとして、緑地整備や、緑地の利用を体験する活動を実施した。地区の環境マップは、環境パネル展や自然体験講座などの活動の中で配布を行い、北部地区の自然環境を紹介することができた。大気汚染調査は継続して年2回の定点観測を行い、データの蓄積を行うことができた。北部地区は自然に恵まれた加住丘陵と歴史のある滝山城址や都市の中に点在する多くの緑地、地域を貫流する谷地川を有している。これらを保存し、活用した活動を行うことができた。

＜環境推進会議での相互評価＞

地域の団体と協働した緑地保全活動を継続的に行っていることから、市内に残る里山林の保全に対する貢献度は高いと評価できる。滝山城址での保全活動は市民だけでなく観光客へも大きく貢献しているので今後も良好な環境づくりに努めてもらいたい。また地区内の谷地川での継続的な水質調査に加え町会との清掃活動をはじめたことは、地域と連携して環境保全活動を進めていく上で重要だと考えている。引き続き、自然に恵まれた地域の特性を生かした活動を進めていただきたい。

＜西部地区環境市民会議での総括評価＞

取組項目について、まだまだ取り組み不十分な面が見られる。大沢川・城山川のクリーン活動では、町会・自治会との共同で行っているが、連携が不十分であり今後調整を行い活動を行う。会員は徐々にだが増えているが、地域の広い西部地区での環境保全活動等を拡大するためには、更なる増員が必要であり、地元呼び掛けを行うなど継続的に働きかけを図っていく。

＜環境推進会議での相互評価＞

広い地域を抱えながらも河川の水質調査や湧水調査をはじめ、大気汚染測定など継続的に取り組んでいることは高く評価できる。大沢川や城山川のクリーン活動などの清掃活動を続けることは、不法投棄の抑制につながると思われるので地域と協力した活動を拡大してもらいたい。「高尾の森自然学校」の開校に向け、整備作業支援に積極的に取り組んでいただき、27年4月10日開校されたところである。また、ダンボールコンポストを活用した学習授業支援は引き続き取り組んでいただきたい。

＜西南部地区環境市民会議での総括評価＞

高尾山環境保全活動は例年どおり樹木調査、環境パトロールを2回行い、環境変化の監視を続けた。裏高尾の駒木野にて野草の保護活動と野草観察会を開催し、多くの市民に喜ばれると共に自然保護の啓発になった。

河川では全国一斉水質調査に継続参加した。親しむ河川づくりで清掃活動を行った。自転車等を取り除き、見違えるようなきれいさと安全性を取り戻した。池の沢館町緑地において企業関係者、一般市民、子ども達と里山保全体験講座、自然観察会を実施した。183名と多くの方に里山保全活動の意義と自然の素晴らしさを知って頂いた。

環境パトロールを実施し、ごみの除去とポイ捨てNO（ノー）の啓発活動を行った。地域の宝を残したい。そのためには多くの人に地域の宝を知って頂くことが大事。

地域の宝を訪ねる講座の実施およびエコミュージアムマップの改定とその資料を求めて地域の探索を行った。

環境教育支援は小学校5校、7学年、延25回、小学生延146名と拡大した。地域団体との共催事業は子供を含めて多数の参加があり、そして好評だった。毎年の定例事業となりつつある。

＜環境推進会議での相互評価＞

本市の一大観光地である高尾山における自然調査の実施は、良好な環境を保全していく上で有益な指標となる。今後も高尾山の良好な環境づくりにつなげるため調査・保全活動を継続してもらいたい。また、地区の宝の掘り起しとして、地区内の自然や史跡などを多くの方々に周知する取組みは、「八王子の自然を愛する心」を育むことにつながる重要な活動だと考える。地域の他団体や地元町会などと連携した活動は、環境意識の向上と地域貢献に大きな成果をあげているため、引き続き取り組んでいただきたい。

＜東南部区環境市民会議での総括評価＞

年2回区域内の駅周辺に落ちているごみの内訳ごとの個数を数えることによって街のきれいさの評価を行ってきました。個人や各種団体の美化に対する思いが効果を表して最悪時と比べてごみは約1/9に減少しています。私どもも毎月1回北野駅周辺と湯殿川の下田橋周辺のごみ拾いを行い街の美化に努めました。町会との協同の活動としては長沼町会と浅川の清掃、打越・北野両町会とは北野駅前の喫煙マナーアップキャンペーンを行うことができました。自然体験講座では夏には「イカダで川下り」、秋には「小比企の自然と歴史を歩く」を計画しよかったという評価をいただきました。自然エネルギーや省エネ・節電についてはソーラーッキングを2回、省エネ・節電の出前講座を4回行い啓発に努めました。

＜環境推進会議での相互評価＞

河川清掃や北野駅前の清掃を地元の町会と連携して実施することは、より一層、まちの美化の推進につながると考える。東南部地区内6駅周辺のきれいさ評価を継続して実施していることからデータとして確認できることは高く評価できる。また、自然エネルギーや省エネに関する講座を実施することで、多くの人が自然エネルギーへの理解を深めるとともに、省エネに対する意識の向上に貢献しているといえる。今後も引き続き、清掃活動やこれらの講座を行い、より多くの人の意識啓発につなげていただきたい。

＜東部地区環境市民会議での総括評価＞

「里山保全活動の推進」は、ニュータウンによって開発された「東部地区」に、転入してきた住民の「みどり」に対する関心が高く、開発についても、“自然保護”を基本に行われ、昔からあった“自然”を維持・保護した『長池公園』と『堀之内寺沢里山公園』、そして、市境を接する『小山中裏公園』がその代表的な場所であり、その上、堀之内に、東京都が指定した「堀之内里山保全地域」がある。これらには、それぞれ“アドプト活動”として参加し、または“ボランティア団体”として参加しての保全活動が行なわれている。「花壇の維持管理」は、花を愛する南大沢の女性グループが中心になり、周辺の学校、企業の参加と、八王子市の協力による花苗を用いて、月に2回以上の活動と、夏期の炎天下での散水などにより、維持管理を行っている。「環境関連団体との交流」は、随時、各団体との情報交換を行っているが、それぞれの活動の関係で、一堂に会して、または、定例会への出席が低調である点が検討を要する点である。「大気汚染測定と水質調査」は、それぞれ関係団体と協力し、計画通り実施した。「環境教育支援事業の推進」は、「エコひろば」の推進により、由木東小学校ほか2校に対して実施することが出来た。「ダンボールコンポスト」の普及活動、『2014八王子環境フェスティバル』の参加、各「市民センターまつり」への出展」の項目については、「ダンボールコンポスト」の入手手続きのシステムが遅れたために、行事が延期され、また、『2014八王子環境フェスティバル』は、荒天で中止になり、目的を達成できなかった。しかし、各「市民センターまつり」への出展については、本年から、「由木東市民センターまつり」にも参加出来ることになり、念願の全地区開催が達成できた。

＜環境推進会議での相互評価＞

長池公園や堀之内寺沢里山公園を代表とする自然を多く取り込んだ都市公園があるこの地区での公園アドプト参加をはじめとする里山保全活動はとても重要である。また四季を上手に使った自然体験講座の開催や、新たに「由木東市民センターまつり」に参加したことで全地区での啓発活動実施など、地域の環境意識の向上に貢献している。今後も公園管理を行う団体や環境保全で活躍する様々な団体との連携・交流を深め、地元はもとより広く市民に親しまれる良好な環境づくりに努めていただきたい。